

新開発の冷マイクロミスト*1を生成 スチーマー「ナノケア」EH-SA92を発売

ハリを与え、うるおいのある肌へ

開発の背景

当社は、「ナノイー」を含んだダブルのプラチナスチームと、さらに肌あたりが進化した冷マイクロミスト*1で、ハリを与え、うるおいのある肌ケアが本格的に自宅のできるスチーマー「ナノケア」EH-SA92を9月1日に発売しました。

2004年に当社が初めてナノテクノロジーを応用したスチーム式美顔器を発売して以来、家庭用スチーム式美顔器の市場は伸長、08年に発売した「ナイトスチーマー」、10年に発売した1台2役の「スチーマー」のヒットもあり、「ナノケア」シリーズの累計販売台数は260万台を突破*2しました。

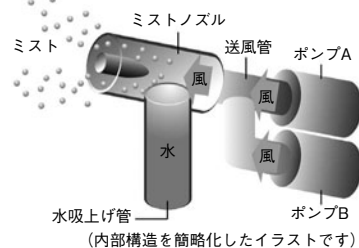
当社は本製品により、家庭における肌ケアのニーズに応え、スチーム式美顔器のさらなる市場伸長を図ります。

主な特長

- 1) 「ナノイー」を含んだダブルのプラチナスチーム*3が角質層まで浸透し、肌にハリを与えうるおいをキープ
「プラチナスチーム」が肌の角質層まで届いてハリを与えると同時に、「ナノイー」が皮脂膜を親水化、肌の水分を保持します。アーク放電により生成される「プラチナナノ微粒子」を含んだスチーム「プラチナスチーム*3」にコロナ放電をかけることで、「ナノイー」を含むプラチナスチームを生成します。
- 2) ミストの粒子が大きさ約半分*3になり、肌当たりがやさしい冷マイクロミスト*1で温冷エステ
冷マイクロミストは、ポンプの送風でミストノズル内の水を吸い上げ、ポンプの風と水を噴霧するベンチュリー方式を採用。このベンチュリー方式に、ポンプを2個内蔵し、ポ

ンプ送風量を増加させ、水を勢いよく噴霧することで粒径を小さくしました。これにより、肌当たりがやさしく均一に冷感肌になります。

■冷マイクロミスト発生仕組み



- 3) 美容専門家から学んで生まれた温冷美容プログラム（自動コース）に新たに6分間の「温スチームコース」を追加
肌にあわせて選べる自動コースは「温プラチナスチーム」と「冷マイクロミスト*1」の交互作用でケアをします。「温める」「冷やす」の組み合わせ時間を変えることで、さまざまな肌タイプの方が温冷ケアできます。また、クレンジングや化粧前の簡単ケアにつかえる温クイックコース（約6分）を追加、使用シーンにあわせた時間設定を選べます。

*1：マイクロミストはプラチナ成分を含んでいません。

*2：2011年6月末現在。

*3：当社従来品（2009年発売EH-SA91）との比較（当社調べ、当社基準に基づく）。

◆詳細URL◆ <http://panasonic.co.jp/corp/news/official.data/data.dir/jn110803-1/jn110803-1.html>

パナソニックで実績のあるエネルギー管理ノウハウを活用 工場向けエネルギー見える化システム「SE-Navi*1」を発売

豊富な分析機能で工場の省エネを強力サポート

開発の背景

当社は、「工場まるごと省エネ支援サービス*2」の一環として、そのエネルギー管理ノウハウを凝縮した、工場向けエネルギー見える化システム「SE-Navi」を開発し、2011年10月13日より受注を開始しました。

本システムは、当社グループ内の生産拠点で取り組んできた省エネのノウハウやエネルギー管理ロジックに加え、省エネ診断サービスのノウハウと「エコ見える化システム*3」の一部機能を融合させたシステムであり、工場の省エネを強力にサポートするトータルソリューションとして提供いたします。

さらに、今後は生産数量と消費エネルギーから算出される原単位*4を、当社独自の省エネ判定手法に基づいて分析判断し、ラインや設備の課題点をタイムリーに抽出する「省エネナビ機能」を付加させて参ります。

主な特長

- 1) 電気、ガスなどの基幹エネルギーのほか、流量、圧力、温度、湿度などの物理量データを把握
電気・ガスはもとより、生産現場での設備の稼働状態を把握する物理量と、製品の生産状況をリアルタイムで計測することで、エネルギー利用効率を把握し、迅速な省エネ対策立案／効果試算／検証の精度向上を強力にサポートします。
- 2) 原単位管理*5と固定変動管理*6によるエネルギー消費効率の分析（固定エネルギー*7の変動化）
生産ラインでの生産数とエネルギー消費量から、原単位の時間推移を把握し、最少原単位での稼働を実現するための

定量分析が可能です。

- 3) 原動設備の種類によって異なる計算式の記述が可能のため、正しい運転効率の算出ができ、機器劣化の状況やメンテナンスの時期をタイムリーに把握
コンプレッサ、ボイラ、冷凍機などの原動エネルギーに対し、原動効率をグラフ化して表示します。原単位の原動効率の平均値の推移を長期で確認することにより、設備の劣化やメンテナンスの必要性を把握することができます。また、複数の原動設備の稼働状況を比較し、負荷のバランスがとれているかを、独自のマニュアルに沿っての分析が可能です。
- 4) 拠点拡充に対応したシステムの増設やグローバル対応が可能
複数拠点、グローバル対応可能なシステム構成であり、遠隔拠点のエネルギー使用量をWebで確認、分析が可能です。

*1：Save Energy Navigator の略。

*2：当社グループの全社活動で培ってきたCO₂削減ノウハウをベースに（1）省エネ診断による改善提案（2）使用エネルギーの見える化支援（3）省エネソリューション技術による省エネ活動サポートと対策実施（4）生産設備と原動設備の省エネ連携制御システム（Save Energy Link = SE-Link）による「工場まるごと省エネ」を段階的に推進するサービス事業。本事業の一部である（2）「使用エネルギーの見える化支援」を今回のSE-Naviにて実現する。

*3：各拠点および企業全体のエネルギー使用量を収集、管理するとともに、分析に適したグラフなどにより、省エネ実現に向けた一連のサイクルをサポートするシステム。

*4：一定量の生産をするのに必要な各種の生産要素の量。

*5：最小（目標）原単位でのモノづくりに、向けた課題分析。

*6：エネルギー消費効率の最適化（固定エネルギーの変動エネルギー化）。

*7：生産数がゼロの時点のエネルギー使用量の近似値。

◆詳細URL◆ <http://panasonic.co.jp/corp/news/official.data/data.dir/jn111013-2/jn111013-2.html>